

科目	介護過程 1 (基礎)							
担当	森 由香子、彦坂 亮、加藤 玲子				年次	1年次	時期	前期
開講回数	15	時間数	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	介護過程
目的・ねらい	介護過程を実践的に展開できるための基礎として、分析力、考察力などの論理的思考と幅広い教養およびチームワークを習得する。							
到達目標	①介護過程を実践できる基礎を理解することができる。 ②地域で暮らす高齢者・障害者の心身を理解できる。 ③高齢者・障害者が地域で生活するための障壁と工夫を理解できる。 ④学生がテーマに沿って課題に取り組み、発表の準備、発表をすることができる。 ⑤グループワークを通しチームワークを習得することができる。							
内容・概要	介護過程のプロセス、地域の高齢者・障害者、グループによる学習、学生による発表、当事者の声、チーム力、その他							
回数	テーマ	内容					授業方法	
1	導入	科目の目的・必要性・進め方					講義	
2	グループワーク	障害者のイメージを模索					講義	
3	ゲスト講義	ゲスト講師による講義 (身体障害者)					講義	
4	グループワーク	障害者のイメージを模索					講義	
5	ゲスト講義	ゲスト講師による講義 (視覚障害者)					講義	
6	グループワーク	高齢者のイメージを模索					演習	
7	高齢者との交流準備	事前準備					演習	
8	高齢者との交流	地域で暮らす高齢者との懇談会					演習	
9	学生による発表	発表					演習	
10	グループワーク	フィールドワークの調査内容を設定②					演習	
11	フィールドワーク	地域調査					演習	
12	フィールドワーク発表準備	発表準備					演習	
13	フィールドワーク発表	発表					演習	
14	まとめ	総括					演習	
15	介護過程	ICF思考トレーニング					講義	
使用テキスト・参考文献			なし					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績					

科目	介護過程 2 (応用)							
担当	森 由香子、高木 直美、板部 美紀子				年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間数	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	介護過程
目的・ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。							
到達目標	①介護過程の展開を理解できる。 ②事例（疾患、症状、薬等）を自主的に調べることができる。 ③介護計画を立案し、アセスメントを体験することができる。							
内容・概要	介護過程の意義、実践的展開、評価、ICF、事例（疾患、症状、薬など）情報整理、アセスメント力							
回数	テーマ	内容					授業方法	
1	導入	科目の目的・必要性・進め方					講義	
2	介護過程の知識	介護過程(ICF) の理解					講義	
3	介護過程の知識	事例1 情報の理解					講義	
4	介護過程の知識	情報の理解					演習	
5	介護過程の知識	情報の整理・観察の整理(ADL一覧)					演習	
6	介護過程の知識	情報の整理・フェイスシート					演習	
7	介護過程の知識	情報の整理・ICFシート					演習	
8	介護過程の知識	情報の関連付け					演習	
9	介護過程の知識	文章化					演習	
10	介護過程の知識	分析 1					演習	
11	介護過程の知識	分析 2					演習	
12	介護過程の知識	介護の方向性 1					演習	
13	介護過程の知識	介護の方向性 2					演習	
14	介護過程の知識	援助計画立案					演習	
15	まとめ	総括					講義	
使用テキスト・参考文献		なし						
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 成績						

科目	介護実習 I							
担当	彦坂 亮、森 由香子、高木直美、板部 美紀子				年次	1年次	時期	後期
開講回数		時間	90	授業方法	実習	領域	介護	介護実習
目的・ねらい	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。							
到達目標	老人福祉施設、老人保健施設、障害者施設、在宅福祉サービスなどの実習を通し、概要を知り、利用者と家族とのコミュニケーション、介護技術の基礎を習得する。							
内容・概要	福祉施設の見学、入所施設介護実習、通所事業所介護実習							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	福祉施設見学			福祉施設の概要			実習	
2	入所施設介護実習			老人福祉施設、老人保健施設、障害者施設の実習を通して概要を理解する。 施設の目的、利用者の特徴、利用者の生活、介護サービス内容、介護体制、その他  コミュニケーションについて学ぶ 目的、尊重、傾聴、共感、自己決定、意思の伝え方、その他  介護技術の基礎を習得 移動や食事介助などの介護技術体験を通して、その原則を理解する機会とする			実習	
3	通所介護実習			通所介護の概要を理解する  レクリエーションの展開について理解する			実習	
使用テキスト・参考文献			なし					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績					

科目	介護総合演習 I										
担当	彦坂 亮、森 由香子、高木直美、板部 美紀子					年次	1年次	時期	後期		
開講回数	19	時間	38	授業方法	演習	領域	介護		介護過程		
目的・ねらい	実習の教育効果を上げるため、実習前後に、実習オリエンテーション、技術の確認、実習書類の作成、マナー講座、実習報告などを行う。										
到達目標	①見学により施設の概要を知る。 ②プロセスレコードの書き方を深める。 ③カンファレンスの展開方法を確認する。 ④ケーススタディ発表を聴き、介護過程の展開を深める。 ⑤実習の目的、目標を理解する。 ⑥実習を振り返り学びと課題を確認する。										
内容・概要	実習の意義・方法・対象者・目的・その他実習準備・実習報告										
回数	テーマ				内容				授業方法		
1	導入				科目の目的・必要性・進め方				講義		
2	実習施設の理解				見学実習の準備				講義		
3	実習施設の理解				見学実習の事後学習				講義		
4	事前学習				プロセスレコード・カンファレンス				講義		
5	事前学習				プロセスレコード				講義		
6	施設介護実習準備				実習の目的確認及び施設概要の理解				講義		
7	施設介護実習準備				事前訪問について				講義		
8	通所介護実習準備				実習の目的確認及び施設概要の理解				講義		
9	施設介護実習準備				事前訪問				講義		
10	施設介護実習準備				実習記録の書き方				講義		
11	施設介護実習中の学習				実習の振り返りと課題				講義		
12	施設介護実習中の学習				実習の振り返りと課題				講義		
13	施設介護実習中の学習				実習の振り返りと課題				講義		
14	施設介護実習中の学習				実習の振り返りと課題				講義		
15	施設介護実習後の学習				実習記録発送の準備				講義		
16	施設介護実習後の学習				実習報告会				講義		
17	通所介護実習準備				実習記録の書き方				講義		
18	施設介護実習後の学習				実習総括				講義		
19	通所介護実習後の学習				実習総括				講義		
使用テキスト・参考文献	ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習（みらい）										
単位認定の方法及び基準	出席状況 ・ 授業態度 ・ 提出物の内容										

科目	介護の基本1 (介護概論)							
担当	高木 直美				年次	1年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護	介護の基本
目的・ねらい	尊厳の保持、自立支援という考え方を理解するとともに、介護を必要とする人を生活の観点からとらえる。また、介護における安全やチームケアについても学ぶ。							
到達目標	①介護を取り巻く状況を理解することができる。 ②介護福祉士の役割と機能を理解することができる。 ③介護従事者の倫理を理解することができる。 ④介護実践における連携を理解することができる。 ⑤介護を必要とする人を理解することができる。 ⑥介護保険サービスを理解することができる。 ⑦介護福祉士の職能団体の活動を理解することができる。							
到達目標	介護を取り巻く状況、自立支援の観点からの介護、他職種協働、職業倫理など介護に関する総合的な基本知識を習得する。							
内容・概要	介護を取り巻く状況、要介護者の理解、連携、介護従事者の安全など							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	導入			科目の意義・目的・進め方			講義	
2	自立に向けた介護			介護の成り立ち、見方・考え方、生活支援			講義	
3	介護を必要とする人の理解			生活の理解、利用者の生活の理解と介護			講義	
4	介護のはたらきと基本的視点			生活支援の意義、尊厳、ICFの考え方、介護とリハビリテーション			講義	
5	生活支援			基本的考え方、介護予防			講義	
6	生活支援			リハビリテーション、福祉用具の活用			講義	
7	介護福祉士とは			取り巻く状況、法令、専門職能団体活動			講義	
8	介護福祉士とは			倫理			講義	
9	介護福祉士の働く場			介護サービスの特性、提供の場の特性			講義	
10	介護実践における連携			多職種連携、地域連携			講義	
11	安全確保とリスクマネジメント			安全の確保、事故防止			講義	
12	安全確保とリスクマネジメント			安全対策、感染管理			講義	
13	緊急時対応の知識と技術			緊急時の対応、応急手当			講義	
14	介護者の健康管理			健康管理の意義・目的、必要な知識・技術、環境づくり			講義	
15	まとめ			講義振り返り			講義	
使用テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ (中央法規)							
単位認定の方法及び基準	出席 ・ 期末試験成績							

科目	介護の基本2(スポーツ科学)						
担当	山本 和恵			年次	1年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	講義・演習	領域	介護	介護の基本
目的・ねらい	介護者に求められる専門性と介護における安全及びチームケア等について理解するための学習とする。						
到達目標	①身体の構造と機能が理解できる。 ②介護予防運動について理解し、実践できる。 ③介護予防運動の安全配慮を理解できる。 ④介護者の身体的負担について理解できる。 ⑤演習を通してチームワークを学ぶ。						
内容・概要	運動器官の理解、介護予防運動の理論と実践						
回数	テーマ	内容				授業方法	
1	導入(オリエンテーション)	科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	運動器官の理解	身体の使い方や動かし方の実践				演習	
3	運動の理解・実践①	レクリエーション・軽スポーツ				演習	
4	運動の理解・実践②	ストレッチング				演習	
5	運動の理解・実践③	レジスタンス運動				演習	
6	運動の理解・実践④	ウォーキング等の全身運動				演習	
7	介護予防と運動①	介護予防運動の重要性と安全配慮				講義	
8	介護予防と運動②	介護予防プログラム(バランス)の実践				演習	
9	介護予防と運動③	介護予防プログラム(筋力)の実践				演習	
10	介護者の身体的負担の理解	腰、腕や肩の負担を軽減する運動やストレッチング				演習	
11	グループ演習①	対象者に応じた運動・レクリエーションの企画・立案①				演習	
12	グループ演習②	対象者に応じた運動・レクリエーションの企画・立案②				演習	
13	グループ演習③	対象者に応じた運動・レクリエーションの発表①				演習	
14	グループ演習④	対象者に応じた運動・レクリエーションの発表②				演習	
15	まとめ	講義総括				講義	
使用テキスト・参考文献	なし						
単位認定の方法及び基準	出席40%・実技(指導法)20%・レポート40%						

科目	こころとからだのしくみ1 (構造機能)							
担当	行本 由実子				年次	1年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ
目的・ねらい	介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解する学習とする。							
到達目標	①人のこころのしくみが理解できる。 ②人のからだのしくみが理解できる。							
内容・概要	こころのしくみ、からだのしくみ							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	導入・こころのしくみの理解			科目の目的、構造と機能とは、健康について、人間の欲求			講義	
2	こころのしくみの理解			こころのしくみの基礎			講義	
3	からだのしくみの理解			からだのしくみの基礎			講義	
4	からだのしくみの理解			運動系の構造と機能			講義	
5	からだのしくみの理解			脳神経系の構造と機能			講義	
6	からだのしくみの理解			細胞・遺伝の構造と機能			講義	
7	からだのしくみの理解			循環器系の構造と機能			講義	
8	からだのしくみの理解			呼吸器系の構造と機能			講義	
9	からだのしくみの理解			消化器系の構造と機能			講義	
10	からだのしくみの理解			消化器系の構造と機能			講義	
11	からだのしくみの理解			泌尿器系の構造と機能			講義	
12	からだのしくみの理解			内分泌系の構造と機能			講義	
13	からだのしくみの理解			生殖器系の構造と機能			講義	
14	からだのしくみの理解			感覚器系の構造と機能			講義	
15	まとめ			総括			講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ (中央法規)						
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 期末試験成績						

科目	こころとからだのしくみ2（病気の理解）							
担当	高木 直美				年次	1年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ
目的・ねらい	人体の構造や機能に支障が及ぶ状態、症状を理解する学習とする。							
到達目標	①介護の対象となる人に多い疾患の病態、原因、症状を理解することができる。 ②疾患に伴う治療の内容を理解をすることができる。 ③健康、身体構造・心身機能の概念でとらえることができる。							
内容・概要	介護の対象となる人に多い疾患、介護保険対象の疾患、薬の理解							
回数	テーマ		内容				授業方法	
1	導入		科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	健康と疾患		定義、構造の変化、死因 等				講義	
3	症候の理解		主な症候				講義	
4	症候の理解		主な症候				講義	
5	疾患の理解		循環器系の病気				講義	
6	疾患の理解		内分泌・代謝系の病気				講義	
7	疾患の理解		脳・神経系の病気				講義	
8	疾患の理解		呼吸器系の病気				講義	
9	疾患の理解		筋・運動器系の病気				講義	
10	疾患の理解		消化器系の病気				講義	
11	疾患の理解		腎・泌尿器系の病気				講義	
12	疾患の理解		生殖器・感覚器・口腔の病気				講義	
13	疾患の理解		感染症、血液・造血器の病気、悪性腫瘍				講義	
14	発表		グループ発表				講義	
15	まとめ		総括				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績					

科目	こころとからだのしくみ3（生活支援）							
担当	板部 美紀子				年次	1年次	時期	前期
開講回数	30	時間	60	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ
目的・ねらい	介護技術の根拠を踏まえ介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。							
到達目標	①健康成人の日常生活動作を理解することができる。 ②睡眠・清潔・食事・排泄についてのこころとからだのしくみを理解することができる。 ③ターミナルケアについて、学ぶことができる。 ④移動・睡眠・清潔・食事・排泄・死にゆく人への支援の方法を理解できる。 ⑤介護者が行える医療行為（通知文）の理解ができる（ガーゼ交換・浣腸・座薬・バイタルサイン）。 ⑥生活行為の替わりとなる医療行為について知ることができる。							
内容・概要	移動、睡眠、身じたく、入浴・清潔保持、食事、排泄、終末期に関する医学的知識、留意点、連携							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1・2	導入			科目の目的・必要性・進め方、人間の欲求、自立と尊厳			講義	
3・4	移動に関連したこころとからだのしくみ			人体各部の名称、ボディメカニクス、ROM、良肢位			講義	
5・6	〃			移動行為の生理的意味、姿勢・体位、安全・安楽な移動			講義	
7・8	〃			立位、座位、歩行、機能低下・障害が及ぼす移動への影響			講義	
9・10	睡眠に関連したこころとからだのしくみ			基礎知識、しくみ、影響			講義	
11・12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ			基礎知識、しくみ、影響			講義	
13・14	〃			基礎知識、しくみ、影響			講義	
15・16	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ			基礎知識、しくみ、影響			講義	
17・18	〃			基礎知識、しくみ、影響			講義	
19・20	食事に関連したこころとからだのしくみ			基礎知識、しくみ、影響			講義	
21・22	〃			基礎知識、しくみ、影響			講義	
23・24	排泄に関連したこころとからだのしくみ			基礎知識、しくみ、影響			講義	
25・26	〃			基礎知識、しくみ、影響			講義	
27・28	死にゆく人のこころとからだのしくみ			死のとらえ方、理解、連携			講義	
29・30	まとめ			総括			講義	
使用テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）							
単位認定の方法及び基準	出席 ・ 期末試験成績							

科目	コミュニケーション手話								
担当	井上 ひとみ					年次	1年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会	人間と社会に関する 選択科目	
目的・ねらい	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解する。								
到達目標	①コミュニケーションを図るための基礎を理解できる。 ②コミュニケーション技法の実際を理解することができる。 ③手話技法を用いてコミュニケーションを図ることができる。								
内容・概要	感覚機能低下、運動機能低下、認知・知覚機能低下等、聴覚障害者の理解、手話で簡単な会話（自己紹介）								
回数	テーマ			内容			授業方法		
1	導入			科目の目的・必要性・進め方			講義		
2	聴覚・言語・視覚障害者の福祉と生活			生活上の課題			講義		
3	聴覚・言語・視覚障害者の福祉と生活			生活上の課題			講義		
4	伝達手段			手話、点字、福祉機器その他			講義		
5	手話			意義			講義		
6	手話			基本技術、指文字			講義		
7	手話			自己紹介(名前・趣味など)			講義		
8	手話			自己紹介(家族・仕事など)			講義		
9	手話			手話の歌			講義		
10	手話			1週間の出来事を話そう			講義		
11	手話			学校生活の出来事を話そう			講義		
12	手話			聴覚障害者と交流をしよう			講義		
13	手話			手話スピーチの練習			講義		
14	手話			手話スピーチの練習			講義		
15	手話スピーチ発表会			手話でスピーチ発表			講義		
使用テキスト・参考文献				ゼロからわかる手話入門（主婦の友社）					
単位認定の方法及び基準				出席 ・ 期末試験成績					

科目	コミュニケーション1（基礎）						
担当	加藤 玲子			年次	1年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	介護 コミュニケーション技術
目的・ねらい	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに利用者やその家族、他職者とのコミュニケーション能力を身に付ける。						
到達目標	①介護におけるコミュニケーションの意義・目的を理解できる。 ②介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションを理解できる。 ③記録における情報の共有・報告・会議の持ち方を理解できる。 ④プロセスレコードの意味・目的・書き方を理解できる。 ⑤チームのコミュニケーションを理解できる。						
内容・概要	コミュニケーションの意義・目的、対人援助技術、家族とのコミュニケーション、組織、会議、記録、プロセスレコード、その他						
回数	テーマ			内容			授業方法
1	導入			科目の目的・必要性・進め方			演習
2	コミュニケーションの基本			意義・目的・役割			演習
3	コミュニケーションの基本			介護におけるコミュニケーション			演習
4	コミュニケーションの基本			介護におけるコミュニケーションの対象			演習
5	プロセスレコード			プロセスレコードの意味・目的・書き方			演習
6	プロセスレコード			プロセスレコードの意味・目的・書き方			演習
7	コミュニケーションの基本			援助関係とコミュニケーション			演習
8	コミュニケーションの基本技術			コミュニケーション態度に関する基本技術			演習
9	コミュニケーションの基本技術			言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本			演習
10	コミュニケーションの基本技術			目的別のコミュニケーション技術			演習
11	コミュニケーションの基本技術			集団におけるコミュニケーション技術			演習
12	家族とのコミュニケーション			家族との関係づくり			演習
13	家族とのコミュニケーション			家族への助言・指導・調整			演習
14	家族とのコミュニケーション			家族関係と介護ストレスへの対応			演習
15	まとめ			授業総括			演習
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規）					
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 期末試験成績					

科目	社会の理解 1 (社会福祉)								
担当	彦坂 亮					年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会	社会の理解	
目的・ねらい	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助、公助に至る過程について理解し、我が国における社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて学ぶ。								
到達目標	①社会保障の基本的な考え方を理解することができる。 ②日本の社会保障制度の発達（歴史）を理解することができる。 ③日本の社会保障制度（社会保険、社会扶助等）の仕組みについて理解することができる。 ④少子高齢化など社会保障に関する動向を理解することができる。 ⑤介護実践にかかわる諸制度を理解することができる。								
内容・概要	社会保障制度、社会保障の発達（歴史）、社会保険、社会扶助、持続可能な社会保障制度								
回数	テーマ			内容			授業方法		
1	社会保障の基本的な考え方			役割、意義、目的、機能、範囲と対象			講義		
2	日本の社会保障制度の発達			社会福祉前史（イギリス・アメリカ・スウェーデン）			講義		
3	日本の社会保障制度の発達			日本における社会保障制度の発達（歴史）（～1945年）			講義		
4	日本の社会保障制度の発達			日本における社会保障制度の展開（歴史）（1945年～）			講義		
5	社会保障制度のしくみ			構造・あゆみ			講義		
6	社会保障制度のしくみ			社会福祉法、年金保険			講義		
7	社会保障制度のしくみ			医療保険、後期高齢者医療制度			講義		
8	社会保障制度のしくみ			社会保険、介護保険			講義		
9	社会保障制度			少子高齢化、財政・財源、給付・負担			講義		
10	介護実践にかかわる諸制度			権利擁護			講義		
11	介護実践にかかわる諸制度			保健医療			講義		
12	介護実践にかかわる諸制度			生活を支える			講義		
13	介護実践にかかわる諸制度			高齢者・障害者の住生活支援			講義		
14	時事問題			関心のあるテーマ			講義		
15	まとめ			講義総括			講義		
使用テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規） 福祉小六法（みらい）								
単位認定の方法及び基準	出席（リアクションペーパー提出含む） ・ 期末試験成績								

科目	社会の理解 2 (高齢者福祉)								
担当	彦坂 亮					年次	1年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会	社会の理解	
目的・ねらい	介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度について介護実践に必要な観点から基礎的知識を学習する。								
到達目標	①高齢者を取り巻く生活状況を理解することができる。 ②高齢者を対象とする介護実践に関する諸制度（老人福祉法、成年後見制度、高齢者医療制度、生活保護制度等）の概要を理解することができる。 ③介護保険制度創設の背景と目的、仕組みの基礎的理解ができる。 ④介護保険制度における組織団体の機能と役割、専門職の役割を理解することができる。								
内容・概要	老人福祉法、介護保険制度、高齢者医療制度、成年後見制度、虐待防止に関する制度								
回数	テーマ				内容			授業方法	
1	導入				科目の目的、意義、進め方			講義	
2	介護保険制度創設の背景と目的				高齢者を取り巻く状況			講義	
3	介護保険制度創設の背景と目的				目的、背景と方向性			講義	
4	介護保険制度のしくみ				概要、財政、サービス利用の流れ			講義	
5	介護保険制度のしくみ				介護サービスの種類			講義	
6	介護保険制度にかかわる組織と役割				国、都道府県、市町村、年金・医療保険者			講義	
7	介護保険制度における専門職の役割				介護福祉士、介護支援専門員、その他			講義	
8	介護保険制度の動向				見直しのしくみ、今後			講義	
9	個人の権利を守る制度の概要				成年後見制度			講義	
10	生活保護制度の概要				生活保護制度			講義	
11	介護実践に関連する諸制度 2				高齢者に関するその他の介護実践に関する諸制度			講義	
12	介護と関連療育との連携に必要な法規				医療関係者・施設に関する法規			講義	
13	保健医療福祉に関する施策の概要 1				高齢者医療制度			講義	
14	保健医療福祉に関する施策の概要 2				生活と福祉			講義	
15	まとめ				講義総括			講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 (中央法規) 福祉小六法 (みらい)、住所地の介護保険パンフレット							
単位認定の方法及び基準		出席 (リアクションペーパー提出含む) ・ 期末試験成績							

科目	社会の理解 3 (障害者福祉)								
担当	山田 義則					年次	1年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会	社会の理解	
目的・ねらい	<p>介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である障害者自立支援制度について介護実践に必要な観点から基礎的知識を学習する。</p> <p>また、介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護法や成年後見制度など基礎的知識を習得する。</p>								
到達目標	<p>①障害の概念を理解できる。</p> <p>②障害者を取り巻く生活環境を把握できる。</p> <p>③障害者福祉施策の展開と障害者総合支援法成立の背景および目的を理解できる。</p> <p>④障害者総合支援法の概要を理解できる。</p> <p>⑤障害者総合支援法における組織団体の機能と役割を理解できる。</p>								
内容・概要	人権、ノーマライゼーション、障害者総合支援法、介護実践に関連する諸制度								
回数	テーマ				内容			授業方法	
1	導入				科目の目的、意義、進め方			講義	
2	障害者の自立				障害の概念			講義 (小テスト)	
3	障害者の自立				基本理念			講義 (小テスト)	
4	障害者総合支援制度のしくみ				障害者総合支援法の制定			講義 (小テスト)	
5	障害者総合支援制度のしくみ				障害福祉サービスの種類と内容			講義 (小テスト)	
6	障害者総合支援制度のしくみ				障害福祉サービス利用の流れ			講義 (小テスト)	
7	障害者総合支援制度のしくみ				給付と負担			講義 (小テスト)	
8	障害者総合支援制度のしくみ				事業者及び施設			講義 (小テスト)	
9	障害者総合支援制度のしくみ				組織・団体の機能と役割			講義 (小テスト)	
10	障害者総合支援制度にかかわる組織と役割				国、都道府県、市町村、年金・医療保険者			講義 (小テスト)	
11	障害者総合支援制度における専門職の役割				介護福祉士、介護支援専門員、その他			講義	
12	障害福祉施策の動向				見直しのしくみ、今後			講義	
13	保健医療福祉に関する施策の概要 1				保健・医療・教育等			講義	
14	保健医療福祉に関する施策の概要 2				生活と福祉			講義	
15	まとめ				講義総括			講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 (中央法規) 福祉小六法 (みらい)							
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 期末試験成績							

科目	生活支援技術 1 (基礎)							
担当	板部 美紀子、加藤 玲子				年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護	生活支援技術
目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる基礎技術や基礎知識について習得する。							
到達目標	①介護技術の原理原則を理解できる。 ②介護技術の根拠を考えることができる。 ③人間のメカニズムを理解することができる。 ④日常生活の基本動作の理解ができる。							
内容・概要	ボディメカニクス、自然な動き、移動、食事、入浴、清潔の基本動作、その他							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	導入			科目の目的・必要性・進め方			講義	
2	移動			自然な動きとボディメカニクス			講義	
3	移動			自然な動きとボディメカニクス			講義	
4	環境			ベッドメイキング			講義	
5	環境			ベッドメイキング			講義	
6	安楽			安楽な姿勢			講義	
7	安楽			福祉用具			講義	
8	整容			衣服着脱			講義	
9	清潔			入浴の基本動作			講義	
10	清潔			気持ち良い湯の温度、拭き方			講義	
11	食事			摂食メカニズム			講義	
12	食事			適した姿勢、福祉用具			講義	
13	排泄			排泄の基本動作			講義	
14	排泄			自然な排泄への働きかけ、プライバシーへの配慮			講義	
15	まとめ			総合学習			講義	
使用テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 I・II (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座 11 ことろとからだのしくみ (中央法規)							
単位認定の方法及び基準	態度 ・ レポート ・ 出席 ・ 期末試験成績							

科目	生活支援技術 2 (応用)							
担当	板部 美紀子、加藤 玲子、高木直美、沖田 美沙				年次	1 年次	時期	後期
開講回数	30	時間	60	授業方法	演習	領域	介護	生活支援技術
目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。							
到達目標	①自立の視点から基礎的な知識・技術を体得できる。 ②ICFの視点に基づきアセスメントができる。 ③一連の手順で技術が習得できる。 ④介護目標、観察の視点を活用し実践した内容を根拠に基づき記録整理ができる。 ⑤グループ演習を通してチームワークを図ることができる。							
内容・概要	自立支援、ICFの視点にもとづくアセスメント、移動、清潔、食事、排泄等の意義・目的、利用者の状況に応じた介助の留意点、その他							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1・2	移動Ⅰ			起居動作①			演習	
3・4	移動Ⅱ			起居動作②			演習	
5・6	移動Ⅲ			ベッドから車いすへの移乗①			演習	
7・8	移動Ⅳ			ベッドから車いすへの移乗②			演習	
9・10	移動Ⅴ			杖歩行、車いす、ストレッチャー			演習	
11・12	清潔Ⅰ			全身清拭			演習	
13・14	清潔Ⅱ			入浴介助①、シーツ交換			演習	
15・16	清潔Ⅲ			入浴介助②、衣類の交換			演習	
17・18	食事介助・口腔ケア			食事介助・口腔ケア			演習	
19・20	排泄Ⅰ			便器介助、尿器介助・陰部清拭			演習	
21・22	排泄Ⅱ			ポータブル介助			演習	
23・24	排泄Ⅲ			おむつ交換、陰部洗浄			演習	
25・26	総合演習Ⅰ			手順にそった実技演習①			演習	
27・28	総合演習Ⅱ			手順にそった実技演習②			演習	
29・30	まとめ			実技演習			演習	
使用テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座11 ころとからだのしくみ (中央法規)							
単位認定の方法及び基準	態度 ・ レポート ・ 出席 ・ 期末試験成績							

科目	生活支援技術 3 (家政学概論)							
担当	澤上 亮子				年次	1 年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	生活支援技術
目的・ねらい	尊厳を保持し、自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な生活支援技術を提供できるようにする。							
到達目標	①家庭の中で営まれる生活の構成要素を理解できる。 ②家庭経営・衣・食・住に関する基礎的な知識を理解できる。 ③利用者の心身の状況、環境状況等を講義と実習を通して理解できる。 ④自立に向けた生活支援、家事支援の視点を理解できる。							
内容・概要	生活支援の視点、家庭経済、衣・食・住に関する基礎知識、基礎的な家事支援、居住環境整備							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	授業の目的・「生活」とは何かを理解する			科目の内容と、自分の生活を理解する必要性			講義	
2	生活の場の特徴と、家庭生活の基本について			生活の構成要素と、生活の個別性への視点			講義	
3	日本の家庭生活の変化と、家庭経済について			高齢者・障害者の家庭経済の実態と、消費者問題等			講義	
4	生活支援の基本について			家庭生活の理解・生活経営			講義	
5	生活支援と介護予防について			生活の再構築とリハビリ・介護予防			講義	
6	自立に向けた家事支援			家事支援の意義と目的、利用者へのアセスメント			講義	
7	食生活の基本知識			食文化・食生活の基本と栄養の理解			講義	
8	高齢者、障害者の食事と、自立に向けた支援			高齢者・障害者の疾患に応じた食生活の支援			講義	
9	高齢者の経済面や栄養を考慮した献立作り			食品の買い物、栄養を考えた献立作り			グループワーク・演習	
10	被服生活の基本知識			被服の機能と素材の理解			講義	
11	自立に向けた被服生活の支援			高齢者・障害者の被服の洗濯・保管			講義・演習	
12	住生活の基本知識			生活の器としての住まいを考える			講義	
13	居住環境の整備と意義・福祉用具			高齢者・障害者が暮らしやすい環境			講義	
14	自立に向けた家事全般の生活支援			事例から衣・食・住の利用者へのアセスメント			講義	
15	<家政学概論>授業のまとめ			総合学習			講義	
使用テキスト・参考文献				最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I (中央法規)				
単位認定の方法及び基準				出席 ・ 演習課題レポート ・ 期末試験成績				

科目	生活支援技術 4 (調理)							
担当	門松 素子、榊原 牧子				年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	生活支援技術
目的・ねらい	尊厳を保持し、自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な生活支援技術を提供できるようにする。							
到達目標	①調理の基本が理解できる。 ②高齢者や障害者に適した食事内容を理解できる。 ③生活習慣病予防食を理解することができる。							
内容・概要	食生活の基本知識、調理の基礎、高齢者や障がい者に適した献立と調理、自由献立と調理							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	食生活の基本知識			食生活の意義			講義	
2	食生活の基本知識			栄養の理解			講義	
3	食生活の基本知識			高齢者の身体機能と栄養			講義	
4	食生活の基本知識			疾患と食事			講義	
5	演習オリエンテーション						講義	
6	調理の基礎、基本の食事			調理操作、献立の立て方、形態別の調理			演習	
7	基本の食事			形態別の調理			演習	
8	高齢者の食事			高齢者向けの調理			演習	
9	高齢者の食事			高齢者向けの調理			演習	
10	障がいのある人の食事			誤嚥予防のための調理			演習	
11	障がいのある人の食事			誤嚥予防のための調理			演習	
12	生活習慣病と食事			塩分控えめの調理			演習	
13	生活習慣病と食事			塩分控えめの調理			演習	
14	行事食とおやつ			自由献立 (発表)			演習	
15	行事食とおやつ			自由献立 (発表)			演習	
使用テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I (中央法規)							
単位認定の方法及び基準	出席 ・ 期末試験成績80% ・ 提出物20%							

科目	生活支援技術 5 (被服)							
担当	光松 佐和子、東 智子				年次	1 年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	生活支援技術
目的・ねらい	尊厳を保持し、自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な生活支援技術を提供できるようにする。							
到達目標	①被服の基本を理解できる。 ②手縫いで小物を作成できる。 ③ミシンで小物を作成できる。 ④高齢者や障害者（麻痺や拘縮）の身体状況に応じた衣類の工夫・制作ができる。 ⑤洗濯や染み抜きの種類と方法を理解できる。							
内容・概要	手縫い、ミシン縫い、衣類の補修、しみ抜き、リフォーム							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	自立に向けた家事の介護(被服生活)			科目の目的・必要性・進め方			講義	
2	被服生活の基本知識			被服のサイズ表示と取扱い、被服の素材			講義	
3	被服生活の基本知識			被服の洗濯と保管			講義	
4	被服生活の基本知識			被服の縫製 手縫い			講義・演習	
5	被服生活の基本知識			ボタン付け、スナップ付け			演習	
6	被服生活の基本知識			ミシン縫い			演習	
7	応用技術			基礎的技術を活用した作品製作			演習	
8	応用技術			基礎的技術を活用した作品製作			演習	
9	補修			衣類の補修			講義・演習	
10	洗濯としみ抜き			洗濯としみ抜きの種類と方法			講義・演習	
11	障害者のための衣類			障害に応じた衣類の工夫			講義・演習	
12	障害者のための衣類			障害に応じた衣類の工夫			演習	
13	高齢者のための衣類			高齢者の体形に応じた衣類の工夫			講義・演習	
14	高齢者のための衣類			高齢者の体形に応じた衣類の工夫			演習	
15	まとめ			総合学習(発表)			講義	
使用テキスト・参考文献				最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ(中央法規) 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ(中央法規)				
単位認定の方法及び基準				出席・授業への取り組み・提出物・期末試験成績				

科目	生活支援技術 6 (住居)									
担当	澤上 亮子					年次	1 年次	時期	後期	
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護		生活支援技術	
目的・ねらい	尊厳を保持し、自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な生活支援技術を提供できるようにする。									
到達目標	①居住環境について学び、自立に向けた整備の意義を理解できる。 ②高齢者や障害者の住まいの安心安全で、快適な空間を理解できる。 ③福祉住環境整備の重要性を理解できる。 ④福祉用具の活用性を学ぶとともに、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどを理解できる。 ⑤住まいの維持・管理の重要性を理解できる。									
内容・概要	快適で安全な居住空間、バリアフリーの視点、住宅改修のポイント、掃除の工夫									
回数	テーマ				内容				授業方法	
1	<住居>の授業の目的・意義				安心安全に暮らせるための居住環境・生活空間要素				講義	
2	住まいの役割と機能				住まいの役割、生活様式の変化				講義	
3	生活空間の動線とライフサイクル				ゾーニング・ライフサイクルと住まい方の変化（事例住宅から学ぶ）				講義・演習	
4	事例平面図から問題点を考える				安心で快適な住まいの工夫と留意点				講義	
5	高齢者も住み続けられる住宅				介護保険適用の住宅改修・福祉用具・ユニバーサルデザインについて				講義	
6	快適な居住環境の要点と意義				日本の風土の特徴と、日本家屋の問題点（プリント、事例）				講義	
7	高齢者に配慮した住宅各所の空間構成				福祉住環境の整備の意義				講義	
8	住まいの維持管理				掃除の基本、メンテナンス（整備）の基本・かび、ダニ、ごみ処理等				講義・演習	
9	生活に便利なエコ小物作り				水廻りの掃除演習とその発表・手指作業のエコ工作				講義・演習	
10	高齢者、障害者の住まいの変遷と施設の特徴				施設の歴史、施設の形態と特徴				講義・演習	
11	理想的な終の住まいを考える				事例を学び、自分の将来の住まいを考える				講義・演習	
12	他職種の役割と協働				事例から学ぶ他職種の関わりについて				演習	
13	設計図面作り				事例（高齢者住宅）の改修設計図作り				講義・演習	
14	設計図面作り				八十歳の理想の自分の住まいの設計図				講義・演習	
15	<住居>の総合問題とまとめ				<住居>の授業を通してのまとめ				講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I（中央法規）								
単位認定の方法及び基準		出席・レポート・演習成果・期末試験成績								

科目	生活支援技術 7 (レクリエーション)							
担当	吉田 貴宏				年次	1年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	生活支援技術
目的・ねらい	尊厳を保持し、自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な生活支援技術を提供できるようにする。							
到達目標	①レクリエーションの意義・目的を理解できる。 ②レクリエーションの展開方法を理解できる。 ③個別ケアを理解し、目的に合ったレクリエーションを理解できる。 ④行事の企画・運営・実施・評価方法を理解ができる。							
内容・概要	レクリエーションの意義・目的、レクリエーションの計画、実践、評価・考察、個別ケアの目的に合ったレクリエーション							
回数	テーマ	内容					授業方法	
1	導入	科目の目的・必要性・進め方					講義	
2	レクリエーションの意義	介護福祉サービスにおけるレクリエーションの意義					講義	
3	レクリエーションの目的	介護福祉サービスにおけるレクリエーションの目的					講義	
4	方法	介護福祉サービスにおけるレクリエーションの展開方法					講義	
5	計画	グループワーク・車椅子でのレクリエーション					講義	
6	計画	グループワーク・車椅子でのレクリエーション					演習	
7	実践	グループワーク・レクリエーションの実践					演習	
8	実践	グループワーク・レクリエーションの実践					演習	
9	評価	評価・考察					講義	
10	計画	グループワーク・認知症の利用者のレクリエーション					講義	
11	計画	グループワーク・認知症の利用者のレクリエーション					演習	
12	実践	グループワーク・実践					演習	
13	実践	グループワーク・実践					演習	
14	評価	評価・考察					講義	
15	まとめ	総合学習					講義	
使用テキスト・参考文献			レジュメを使用					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績					

科目	人間関係とコミュニケーション						
担当	福定 正城			年次	1年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会 人間関係とコミュニケーション
目的・ねらい	対人援助のために必要な人間の理解や、他者への情報伝達に必要な、基礎的コミュニケーション能力を養う。						
到達目標	①人間関係の形成の土台として、自己理解・他者理解を深めることができる。 ②他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ③援助において適切な対人距離をとり、受容、共感、傾聴などの技法を使うことができる。 ④チームケアの重要性と必要となるコミュニケーションの重要性について理解できる。						
内容・概要	自己覚知、自己開示、コミュニケーションの概念、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、対人援助職としての基本的態度、バイステックの7原則、組織内コミュニケーション						
回数	テーマ		内容			授業方法	
1	オリエンテーション		科目の目的、意義、進め方			講義	
2	人間と人間関係		人間らしさのはじまり・自分と他者の理解			講義・演習	
3	人間と人間関係		発達心理学からみた人間関係			講義・演習	
4	人間と人間関係		社会心理学からみた人間関係			講義・演習	
5	人間と人間関係		人間関係とストレス			講義・演習	
6	対人関係におけるコミュニケーション		コミュニケーションの概念			講義・演習	
7	対人関係におけるコミュニケーション		コミュニケーションの基本構造			講義・演習	
8	対人関係におけるコミュニケーション		コミュニケーションの手段			講義・演習	
9	対人援助関係とコミュニケーション		対人関係の基本となる人間関係とコミュニケーション			講義・演習	
10	対人援助関係とコミュニケーション		対人援助における基本的態度			講義・演習	
11	対人援助関係とコミュニケーション		援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則			講義・演習	
12	組織におけるコミュニケーション		組織の条件とコミュニケーションの特徴			講義・演習	
13	組織におけるコミュニケーション		組織における情報の流れ			講義・演習	
14	組織におけるコミュニケーション		組織において求められるコミュニケーション			講義・演習	
15	まとめ		講義総括			講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解（中央法規）					
単位認定の方法及び基準		出席および演習における積極性 ・ 期末試験成績					

科目	人間の尊厳と自立								
担当	花井 文治					年次	1年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会	人間の尊厳と自立	
目的・ねらい	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。								
到達目標	①介護の対象となる人間の多面的理解ができる。 ②介護の対象となる人間の自立、自律した生活を支えることの意義を理解できる。 ③介護場面において、尊厳のある態度で対応できる能力、職業倫理観を身に付ける。 ④介護の対象となる人間に対する権利擁護の視点を身に付ける。								
内容・概要	人間の多面的理解、人間の尊厳と自立、権利擁護、アドボカシー、自立支援								
回数	テーマ				内容			授業方法	
1	導入				科目の目的、意義、進め方			講義	
2	人間の尊厳と自立の意義				人間の理解			講義	
3	人間の尊厳と自立の意義				人間の尊厳			講義	
4	人間の尊厳と自立の意義				自立と自律			講義	
5	尊厳と自律をめぐる歴史としくみ				人権、尊厳と自立の思想			講義	
6	尊厳と自律をめぐる歴史としくみ				諸規定			講義	
7	尊厳と自律をめぐる歴史としくみ				ディスカッション1		生活の幸せ	演習	
8	人間の尊厳・自立と生活				尊厳と自立			講義	
9	人間の尊厳・自立と生活				ディスカッション2		尊厳と自立	演習	
10	介護における尊厳の保持・自立支援				権利擁護と人権尊重			講義	
11	介護における尊厳の保持・自立支援				介護における自立支援			講義	
12	介護における尊厳の保持・自立支援				ディスカッション3		尊厳の保持	演習	
13	介護における尊厳の保持・自立支援				ディスカッション4		自立支援の実践	演習	
14	介護における尊厳の保持・自立支援				ディスカッション5		自立支援の実践	演習	
15	まとめ				講義総括			講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解（中央法規）						
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績						